

# エンカウンター（ENCOUNTER）

## 第 15 号

平成 15 年 7 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三  
電話 045-912-1960

印刷・発送人 〒285-0844 佐倉市上志津原 34 佐藤れん  
電話 043-487-7030

## パウロの手紙より（４） ガラテヤ書（２）

### 2 章 15 ~ 16 節

私たちは生まれながらのユダヤ人であって、異邦人なる罪人ではないが、人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰によることを認めて、私たちもキリスト・イエスを信じたのである。それは、律法の行いによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義とされるためである。なぜなら、律法の行いによっては、だれひとり義とされることがないからである。

### 第 2 章 19 節 ~ 20 節

私は、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。私はキリストとともに十字架につけられた。生きているのは、もはや私ではない。キリストが私のうちに生きておられるのである。

### 第 4 章 12 節

兄弟たちよ。願います。どうか、わたしのようになってほしい。わたしも、あなたのようになったのだから。

## 第5章6節

キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。

## 第5章14節

律法の全体は、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」というこの一句に尽きるからである。

## 第5章22節

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。

## 第6章1節

兄弟たちよ。もしある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなた方は、柔和な心を持って、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。

## 第6章2節

互いに重荷を負い合いなさい。そうすればあなた方はキリストの律法を全うするであろう。

## 第6章5節

人はそれぞれ、自分自身の重荷を負うべきである。

## 第6章9～10節

私たちは、善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる。だから、機会のあるごとに、だれに対しても、特に信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。

## 第6章11節

ごらんなさい。わたし自身いま筆をとって、こんなに大きい字で、あなた方に書いていることを。

## 第6章14～15節

しかし、私自身には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇りとするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。割礼のあるなしは問題ではなく、ただ、新しく造られることこそ、重要なのである。

## コリント人への第一の手紙

### 第 1 章 1 ~ 2 節

神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、コリントにある神の教会、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての人々と共に、キリスト・イエスにあってきよめられ、聖徒として召されたかたがたへ。

### 第 1 章 1 8 節

十字架の言葉は、滅び行くものには愚かであるが、救いにあずかるわたしたちには、神の力である。

### 第 1 章 2 3 節

しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、召されたもの自身にとっては、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。

### 第 1 章 2 6 節

兄弟たちよ。あなた方が召されたときのことを考えてみるがよい。人間的には、知恵のあるものが多くはなく、権力のある者も多くはなく、身分の高い者も多くはいない。それなのに神は、知者をおぼしめるために、この世の愚かな者を選び、有力なものを無力にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。それは、どんな人間でも、神のみ前に誇ることはないためである。

## 第1章30節～31節

あなた方がキリスト・イエスにあるのは、神によるのである。キリストは神に立てられて、私たちの知恵となり、義と聖とあがないとになられたのである。それは、「誇る者は主を誇れ」と書いてありでありである。

## 第2章2節

なぜなら、私はイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなた方の間では何も知るまいと、決心したからである。

## 第3章4節

ある人は「私はパウロに」といい、ほかの人は「私はアポロに」と言っているようでは、あなた方は普通の人間ではないか。アポロは、いったい、何者か。また、パウロは何者か。あなた方を信仰に導いた人にすぎない。しかもそれぞれ、主から与えられた分に応じて仕えているのである。私は植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させてくださるのは、神である。だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なものは、成長させて下さる神のみである。植えるものと水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。私たちは神の同労者である。あなた方は神の畑であり、神の建物である。

## 第3章10節

神から賜った恵みによって、私は熟練した建築師のように、土台をすえた。そして他の人がその上に家を建てるのである。……そして、この土台はイエス・キリストである。

### 第3章 16節

あなた方は神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。

### 第3章 18節

誰も自分を欺いてはならない。もしあなた方のうちに、自分がこの世の知者だと思ふ人がいるなら、その人は知者になるために愚かになるがよい。なぜなら、この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。

### 第4章 5節

主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう。

### 第4章 15 ~ 16節

キリスト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。そこで、あなた方に勧める。わたしにならう者になりなさい。

### 第6章 14節

神は主をよみがえらせたが、その力で、わたしたちをもよみがえらせて下さるであろう。あなた方は自分のからだだがキリストの肢体であることを、知らないのか。

## 第6章19節

あなた方は知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。

## 第7章17節

ただ、各自は、主から賜った分に応じ、また神に召されたままの状態にしたがって、歩むべきである。

## 第7章31節

世と交渉のあるものは、それに深入りしないようにすべきである。なぜなら、この世の有様は過ぎ去るからである。

## 第8章1節

知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める。

## 第9章19節～23節

わたしは、すべての人に対して自由であるが、出来るだけ多くの人を得るために、自ら進んですべての人の奴隷になった。ユダヤ人には、ユダヤ人のようになった。ユダヤ人を得るためである。律法の下にある人には、私自身は律法の下にはないが、律法の下にある者のようになった。律法の下にある人を得るためである。律法のない人には……律法のない人のようになった。律法のない人を得るためである。弱い人には弱い者になった。弱い人を得るためである。すべての人に対しては、すべての人のようになった。何とかして、幾人かを救うためである。福音のために、わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである。

## 第 9 章 2 4 節

あなたがたは知らないのか。競技場で走るものは、みな走りはするが、賞を得るものはひとりだけである。あなた方も、賞をえるように走りなさい。しかし、すべて競技をするものは、何事にも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。そこで、わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空をうつような拳闘はしない。すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかもしれない。

## 第 1 0 章 1 3 節

あなた方のあった試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えてくださるのである。

## 第 1 1 章 1 節

わたしがキリストにならう者であるように、あなた方もわたしにならう者になりなさい。

## 第 1 2 章 4 節

霊の賜物は種々あるが、御霊は同じである。務は種々あるが、主は同じである。働きは種々あるが、全てのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである。



## 第 1 2 章 2 7 節

あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。

## 第 1 3 章 2 ~ 3 節

たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

## 第 1 3 章 4 ~ 7 節

愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、無作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

## 第 1 3 章 1 3 節

このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちでもっとも大いなるものは、愛である。

## 第 1 5 章 1 2 ~ 1 4 節

さて、キリストは死人の中からよみがえったのだと宣べ伝えられているのに、あなた方の中のある者が、死人の復活などはないといっているのは、どうしたことか。もし死人の復活がないならば、キリストもよみがえらなかつたであろう。もし、キリストがよみがえらなかつたとしたら、わたしたちの宣教はむなしく、あなた方の信仰もむなしい。

## 第 15 章 4 2 節

死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。

## 第 15 章 5 1 ~ 5 3 節

ここで、あなた方に奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きとともに、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。なぜなら、この朽ちるものは、必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。

## 15 章 5 8 節

だから、愛する兄弟たちよ。堅くたって動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。

## 16 章 1 3 節

目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。いっさいのことを、愛をもって行いなさい。